

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ジェイエイ兵庫六甲福祉会	代表者	山脇 利文	法人・事業所の特徴	平成26年12月に開設した事業所です。伊丹の中でも自然豊かな池尻の地で利用者様に安心していただける事業所作りを目指しています。「豊かな創造力を持ち、地域と共生できる事業所目指して!」という事業所理念に基づき、地域の皆さまとの関わりも大事にしていきたいと思っています。また、裏の畑では土に親しむ事ができ、皆様には懐かしいと好評いただいています。
事業所名	オアシス伊丹池尻	管理者	荒木 恭子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	1人	0人	1人	0人	21人	1人	28人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価で事業所全体の課題、職員個人の課題を知る事ができた。できていない点は個別面談で把握し改善策を検討する。	今年度目標の中にも、自身の苦手、又は知識として習得したい課題を職員は目標として取り入れるように努めた。	職員全体で取り組む姿勢は確認できた。職員が事業所の理念を理解していると思うが具体的な行動計画は実現できているのだろうか。	人事考課等で職員の取り組み課題をフィードバックし、次年度の目標に繋げる。特に多機能性のある柔軟な支援に注力していきたい。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、明るく清潔な事業所作りと、不審者対策を行っていく。	防犯カメラ取り付けを行い、建物への侵入者についての防犯対策とした。	前日も玄関24時間施錠について意見交換したが、短時間でも無施錠に出来ない理由について再検討が必要ではないか。	玄関24時間施錠が利用者にとってどのような不利益を被る事があるのかを「虐待の定義」に振り返り、研修を行いたい。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所が目指す役割(地域との共生)周知の為、地域を巻き込んだイベント開催実施(子供会とのフリーマーケット、介護者カフェ)	まちづくり協議会主催のヤングフェスティバルへ参加し、グループホームと共同で作品展示などを行い地域住民と交流が持てた。	地域の取組みに参加していく姿勢は確認できた。しかし非日常でのかかわりのみでなく日常的なかかわりにもっと検討が必要ではないか。	計画性を持った年間計画で、利用者も一緒に地域と関わりががるような取組みを進めていきたい。地域資源の活用も考える。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	小規模多機能の制度、機能、地域の中での役割を改めて職員と考える機会を作る(職員会議での勉強会、外部研修等)。	毎月の勉強会を中心に地域における事業所役割を考える機会を持った。掲示板で事業所の広報を行う事で外部からの相談も数件あった。	数件の外部からの相談対応もされている事は確認できた。利用者が自宅でどのように過ごしているか職員は把握できているか。	発言が少ない方ほど関わりが少なくなりがちであったが、声なき声を聞けるよう、「～したい」の実現に取り組んでいきたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	議題については改善を予定していく。今後、議題については委員へ事前に周知しておき、情報交換の意見を考え、持ち寄って頂く様にする。	今年度より年間通じての課題共有「災害時における取組み」を行えた。会議内容は日常のかかわりを伝え委員意見をもらえるよう努めた。	非日常ではなく日常の生活の様子を報告の中に取り入れて欲しい。この会議のメリットを最大限に活かして欲しい。	災害についての情報共有は引き続き行う。次年度の会議は書面や口頭報告だけでなく、視覚(写真等)で確認できる会議を実現したい。
F. 事業所の防災・災害対策	マニュアルシミュレーションを実施し、より現実に則したマニュアル作りを行う。	法人(東地域事業部)で共通のマニュアル作りと平行して事業所独自の防災対策についても取り組めた。	緊急連絡網は最後まで正確に伝わるだろうか?ライン、SNS等を用いる事も検討が必要ではないか。	実現可能なマニュアル、連絡網を作る。必ず、実現可能であることの検証を行う。(訓練→モニタリング→再検討→作成)

